

青少年「平和と交流」支援事業（HIROSHIMA and PEACE）  
報告会の実施について

参加者名：Raquel de Santana Iraha

派遣元加盟都市（国）：サントス（ブラジル）

行事名	平和推進：平和首長会議とサントス市の取組み
実施日	2018年9月18日
実施場所	サントス・カトリック大学
対象者 (属性・年齢等)	国際関係学専攻の学部生および大学院生 国際関係学の教授 他プログラム（歴史および企業経営）の学部生 サントス市国際部コーディネーター、パウラ・フランチ・クァリアト・トリンガリ氏
参加者数	約27名
報告会の概要等	<p>「国際関係週間」にサントス・カトリック大学において広島での経験について発表する機会を得ました。発表時間は1時間だったため、4つのトピックを扱うことに決めました。</p> <p>まず、平和首長会議の取組み、使命、目的、そして他の都市が参加する方法についての説明です。加盟都市分布図を示し、2020ビジョンキャンペーンと署名活動について説明しました。</p> <p>次に、サントスがどのように平和を推進し、平和首長会議との関係を発展させるのか、そして核軍縮はブラジル人にとって容易で関わりの深い話題ではないことから、異なる文化に平和推進を落とし込む際の課題について発表しました。しかし、私が強調したのは、過去の残虐行為を繰り返さないことの大切さと、私たちは自らのコミュニティにおいて平和を推進することのできるアクティブ・シチズンであるということを知りたなければならないということです。</p> <p>それから、広島での経験と核軍縮の重要性について話しました。被爆者の証言を聞いたことは、私にとって広島への旅の中で特別で忘れ難い瞬間だったので、そのメッセージと問題の緊急性を伝えようと思いました。</p> <p>最後に、彼らが平和首長会議の支援プログラムの候補者となることを望んだ場合に備え、当プログラムの内容や、広島滞在中に作成する行動計画のことなど、奨学金に関連した活動について発表しました。最後に、平和な世界を作るにあたり私たち一人ひとりが持っている重要性について触れ、職業や出身に関係なく、私たちの誰もが何らかの貢献をすることができるということを指摘して締めくくりました。</p>
その他 参考となるURL 等を記載のこ と。	<p>参加者が署名できるように、嘆願書のコピーを用意しました。また、平和式典や「HIROSHIMA and PEACE」プログラム、平和首長会議のオフィス訪問などの写真を見せました。発表後、参加者のうち数名から、嘆願書や平和首長会議の影響力についての質問があり、彼らが強い関心を持っていることがわかりました！</p>

※写真は別ファイルで添付してください。

